

産業建設委員会

平成22年10月25日から27日にかけて、千葉県野田市、埼玉県川口市において行政視察を行いました。

野田市では、「環境保全型農業の推進」をテーマに、「玄米黒酢農法を取り入れた水稻栽培」及び「剪定枝、草・落ち葉等堆肥化事業」について視察を行いました。

まず「玄米黒酢農法」については、新潟の味噌醤油メーカーと新潟大学が共同で開発した水稻栽培方法で、玄米黒酢を稲に散布し、豊富なアミノ酸等の栄養成分により、病気に負けない強い株の育成と食味の向上を目的としています。将来的には「黒酢農法米といえれば野田産」といったブランド米を目指し、栽培技術の改善やPRを行っているとのことでした。

また、剪定枝等の堆肥化事業については「野田市堆肥センター」において、剪定枝等から生産した堆肥等を市内の農家に販売し、環境保全型農業を推進していました。次に川口市では、「ジャパンプランド育成支援事業における川口



野田市堆肥センターで説明を受ける産業建設委員

铸件発展のための取り組み」と

「川口市中小企業振興条例制定後の取り組み」について視察しました。

特にジャパンプランド育成支援事業については、川口铸件発展のため、商工会議所が薄肉軽量のダクタイル铸件調理器具の研究・開発に取り組み、現在、ブランド名「KAWAGUCHI irono」（かわぐち いるもの）として販売されています。ブランド認定制度も開始し、販路拡大や品質向上への支援を行うことにより、ものづくりのまち「川口」の知名度の向上も目指しています。

議会運営委員会

平成22年8月23日から24日にかけて、山口県長門市、山口市、山陽小野田市において「議会改革と議会基本条例の取り組み」について行政視察を行いました。

長門市では、平成18年2月から議会改革等研究会を開催し、平成22年には「議会基本条例」をテーマとした議員研修会を開催しました。議会基本条例を制定することは統一できていますが、条例化についてはまだ決まっていません。制定にあたっては、市民参加が絶対条件であり、議会の考え方を説明する場として議会説明会を入れるべきであるとのことでした。

次に山口市では、「市民にとって頼もしく思える市議会」を目指し、平成18年から調査研究を行い、平成21年3月に議会基本条例制定を可決し、平成21年4月1日に施行しています。山口市では理念条例として制定しており、市長の反問権や一問一答などについて一致点が見いだせず、積み残し部分が多々あるとのことでした。

次に山陽小野田市では、議会基本条例研究会が平成20年12月に発足し、理想とする議会のあり方について研究を重ね、平成21年12月、議会基本条例制定別委員会が設置されました。毎月開催される特別委員会では条例制定に向けての議論を進め、実効性のある議会基本条例を制定する、との結論に至りました。今回の行政視察では、議会基本条例の制定に関してかなり温度差がありました。特に長門市では、拙速にはなく、遅くなっても構わないから中身のあつものを作りたいとの意見が印象に残りました。



山陽小野田市議会から説明を受ける議会運営委員